

## 環オホーツク圏における気候学と古気候学の接点

### —戦略的な気候変動研究の体制構築を目指して—

日時：平成18年3月7日9時～18時，3月8日8時30分～15時

場所：北海道大学低温科学研究所講堂 (<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/access.html> を参照下さい)

長いタイムスケールを持つ気候変動のメカニズムを解明し、それを予測するためには、地球物理学者による現在の気候データの解析・モデリングの研究と古気候学者による過去の気候復元の研究が、車の両輪となって進むことが必要です。しかし、日本ではこれまで両者は別々に研究されてきた経緯があります。本シンポジウムでは、特徴的なくつかの気候変動要素を合わせ持つ「環オホーツク圏」を舞台として、気候物理学と古気候学の研究者が一堂に会し、両者の協力による気候変動研究の新たな発展の方向性を議論することを目的とします。

### プログラム

#### 3月7日（火）午前

- 9：00～ 9：15 趣旨説明  
9：15～10：00 中村 尚（東大院理）  
気候変動における環オホーツク地域の重要性  
10：00～10：45 山崎 孝治（北大院環境）  
北極振動と日本の気候  
  
10：45～11：00（休憩）  
  
11：00～11：45 見延 庄士郎（北大院理）  
環オホーツク地域に影響する十年スケール変動  
11：45～12：30 高谷 康太郎（海洋研究開発機構）  
シベリア高気圧の活動とその長周期の変動

#### 3月7日（火）午後

- 13：30～14：15 小林 修（愛媛大農）  
樹木年輪による古気候復元の方法と世界の研究動向  
14：15～15：00 安江 恒（信州大農）  
日本における樹木年輪情報を用いた気候復元  
  
15：00～15：15（休憩）  
  
15：15～16：00 中塚 武（北大低温）・辻 寛之（北大院環境）  
北海道とカムチャッカにおける樹木年輪同位体比を用いた古気候の復元  
16：00～16：45 白岩孝行（総合地球環境学研究所）  
環オホーツク地域（含むアラスカ）における氷コアを用いた古気候復元  
  
16：45～17：00（休憩）  
  
17：00～17：45 大島 慶一郎（北大低温）  
温暖化の高感度域オホーツク海：その変動と北太平洋へのインパクト

18:30 ~ 懇親会

**3月8日(水) 午前**

8:30~ 9:15 鬼頭 昭雄 (気象研)

過去・現在・将来の気候シミュレーション

9:15~10:00 柳瀬 亘 (東大気候システムセンター)

最終氷期極大期における東アジア・北太平洋の大気循環の数値シミュレーション

10:00~10:15 (休憩)

10:15~11:00 高原 光 (京都府大農)

湿原堆積物の花粉分析による環オホーツク地域における最終氷期以降の植生変遷

11:00~11:45 坂本 竜彦 (海洋研究開発機構)

オホーツク海及び周辺海域における堆積物コアの氷屑堆積物 (Ice Rafted Debris) を用いた古海氷復元

11:45~12:30 原田 尚美 (海洋研究開発機構)

オホーツク海表層水温変動に影響を与える淡水インパクト  
—海底堆積物に残された過去12万年の記録—

**3月8日(水) 午後**

12:30~15:00 総合討論 (昼食をとりながら)

(中村知裕・三寺史夫「環オホーツク圏モデリングへの取り組み」を含む)

**問い合わせ先**

北海道大学 低温科学研究所 環オホーツク観測研究センター

江淵 直人 (011-706-5470, ebuchi@lowtem.hokudai.ac.jp)

三寺 史夫 (011-706-5478, humiom@lowtem.hokudai.ac.jp)

中塚 武 (011-706-5504, nakatuka@lowtem.hokudai.ac.jp)